

食卓風景と食事マナー

～ 時代とともに変化してきた食卓風景から次世代に伝えていきたい食事マナーを考えます ～

福岡女学院大学名誉教授 坂元 明子

食卓風景から見えてくるもの

現在の食卓風景から

豊かな食卓

無国籍料理の氾濫

孤食、個食、偏食の増加

外食・中食の増加などが見えてきます。

そのような中で、食事マナー（作法）が変化し、お箸の知識が足りない人、使いやすいお箸の選び方や持ち方が分からない人、ご飯をきちんとお箸で食べていない人などが増えています。

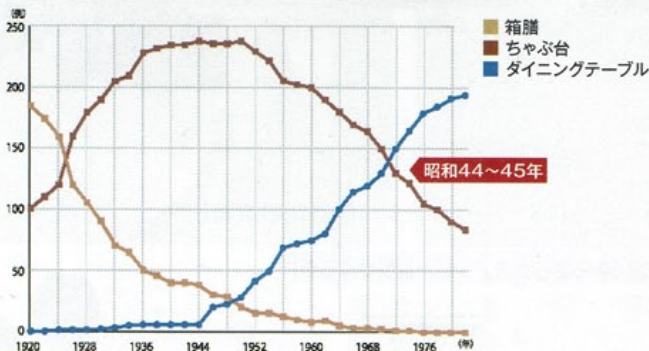


マナー（作法）とは

マナーとは、社会生活においてたがいに守ることが期待されている言動とふるまいで、動物との差異化の意識、羞恥心の排除、美意識への志向から発生したと考えられています。食事マナーは共に食べる人に不快な思いをさせない行為です。

下図は時代とともに箱膳、ちゃぶ台、ダイニングテーブルと食卓形式が変化してきた事を示しています。食卓形式が変化することで食事マナーも変わってきました。

生活の変化、食卓形式の移り変わり



出典:「現代日本における家庭と食卓 - 銘々膳からチャブ台へ」
石毛直道・井上忠司編 国立民族学博物館研究報告別冊16号



そこで、次世代に遺したいお箸のマナーについて考えます。

日本は古代からお茶碗を手を持って、お箸でご飯を食べるという文化を持ち、伝えてきました。お箸文化は粘りの多いお米を好む日本人にはつまみやすく、食べやすいのです。このように食べ物と食具（お箸）には密接な関係があります。日本人がご飯を主食とするかぎり、お箸文化は続いていくと思います。大人はお箸の歴史、使いやすいお箸、持ち方、してはならないお箸の使い方（嫌い箸）について学び、子どもたちに伝えていきましょう。

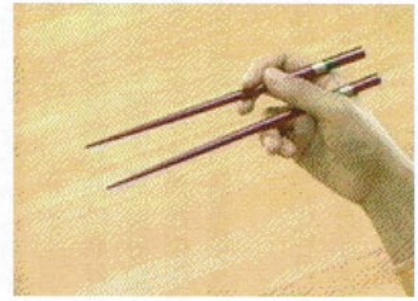
使いやすい箸

- ◆箸の長さ
手の大きさにあっている
一咫×1.5 手の長さ×1.2
- ◆箸の重さ
軽なお箸（箸の材質）を選ぶ
ひのきの箸、竹の箸
- ◆つかみやすい箸
箸先が細くなっている
滑り止め箸



子どもの成長に合わせて箸を準備する

正しい箸の持ち方



下の箸は固定し、
上の箸だけが動く

嫌い箸（してはならない箸使い）

箸渡し	お箸ではさみあげた食べ物を、お箸とお箸でやり取りする。
渡し箸	食事の途中に箸を食器の上に渡しておくこと「もういりません」という意味になる。
持ち箸	お箸を持っている手で、一緒に他の食器を持つこと。
ねぶり箸	お箸についたものを、口でなめる。
さぐり橋（せせり箸）	盛り付けられた料理を中からほじくりだすこと。料理は上から順に、また手前から取っていくのが原則です。
迷い箸	どの料理から食べようかと迷い、料理の上で箸を動かす。
刺し箸	お箸を食べ物に突き刺して食べる。
直箸	取り箸を使わず、自分の箸で料理を取り分ける
こじ箸	食器に盛られた料理をかき回し、好物をさがす。
かみ箸	箸先をかむこと。
涙箸	お箸の先から、汁をぼたぼた落とす。日本では不浄とされる。
押し込み箸（込み箸）	口にほおばった料理を箸で押し込むようにすること。
叩き箸	お箸同士を、太鼓のバチのようにかんかんと叩く。
かき箸	食器のふちに口を当てて、料理をかき込んで食べる。
空箸	お箸を一度料理につけながら、食べないで置く。
受け箸	お箸を持ったままおかわりをする。
振り箸	箸先に着いた食べ物を振り落とす。
移り箸	あれこれと、卑しくおかずばかり繞って食べる。ひとつのおかずを取りかけたのをやめて、他のものに替えること。
寄せ箸	食器をお箸で手前に引き寄せる。
くわえ箸	お箸を置かず、お箸から手を離して口にくわえたままにすること。
二人箸	二人一緒に同じ料理をはさむ。
指し箸（指さし箸）	お箸で人を指すこと。
落とし箸	食事中に箸を床に落とすこと。
立て箸	ご飯の上にお箸を突き刺す。仏箸と言われ、死者の枕元に供えるときだけにする。
拝み箸	両手で箸をはさみ、拝むようにする。



食卓風景から見えてきたもの

食卓風景を観察することで、マナーが時代とともに変化してきたこと、食事マナーが分からない人が多くなっていることが見えてきました。忙しい現代社会で変えてはならないマナーと変えなければならないマナーは何か？家庭、学校、社会それぞれ話し合ってみましょう。

— 親から子どもへ —

- 食事マナーを子ども達に伝える
- 食前・食後の挨拶をする
- 正しい箸の持ち方を・使い方を教える
- 偏食をしないようによくかんで食べる
- 周りの人と食べる速さを合わせる
- 食べきらないものは始めから手を付けない
- 楽しく食べる

食卓の風景を変えるのは
私たち大人です。
日本の大切な食文化を
残していきましょう。



少年の主張大会

「私からのメッセージ」



明るい未来を
めざして

大堰小学校
6年 四ヶ所 正敏

「皆さんは、自分に自信がありますか。」
ぼくは、これまで自分に自信がもてていませんでした。

しかし、今では、ぼくにもできるんだという自信が出てきました。この自信をつけてくれたのは、他でもない身近な人の存在でした。

これまでの自分を振り返ってみると、何に対してもやる気が起きず、周りの出来事や困っている人に対して、自分から声をかけることができませんでした。

運動会や水泳記録会に向けての練習に対しても、なかなか集中して取り組めなかったように思います。「どうせ練習をしてもできませんし」と、どこか投げやりな気持ちになっていました。

そんなぼくが変わったのは、自分に対する見方を変える、あるきっかけがあったからです。

それは、クラスの友達からの言葉かけです。ぼくは、周りの友達よりも体が大きく、それはずっと気になっていました。「周りの友達か

らどう思われているんだろう。」と考えることも多くありました。

ある時、町の図書館から本が二十冊、学級文庫として学校に届きました。ふと見ると、友達が一人で運ぼうとしていました。でも、持ち上げることができずに困っているようでした。「手伝おうかな。」とは思いましたが、声をかけることはできませんでした。するとその友達から、「正敏くん、ちょっと手伝ってよ。」と言われました。一緒に持とうとすると、身長に差があつて運びにくかったので、

「いいよ。ぼくが一人で持つよ。」
と言つて、持ちあげると、

「すっげ、何でもこんなに重たいのに持てるよ。」
と言われました。自分では普通の事だったのに。このとき、自分の力が強いことに気づきました。と同時に、身体が大きいることがその理由ではないかと思いました。

六年生になり、ぼくは、環境委員会の委員長となりました。環境委員会では、花の植木鉢やプランターを運ぶことも多くあります。大きくて重たくて、他の委員がもてないようなものは、僕が率先してもつようにしました。

「ありがとう。」「すごい。」
と言われると照れくさいですが、「人の役にたっているんだなあ」と自分が誇らしく思えます。自分が気にしていたことは良きなんだ、と気づかせてくれた友達がいること、色々な人から「ありがとう」と言ってもらえたことが本当にうれしかったです。

気持ちはあるのに、なかなか行動に移せない、そんな自分にもやもやすこともありました。でも、今少しずつ行動にうつせっていると感

ず。困っている人を見かけると「ぼくが持とうか。」「ぼくがするよ。」と声をかけることができようになりました。

以前のぼくのように、自分の中にある良さに気づいていない人もいるのではないのでしょうか。友達がぼくのことを認めてくれたように、その人の良さを伝えることで、自信をもてる人が増えていくと思います。

ぼくは、周りにいる友達との関わりで自分のよさに気づくことができました。でも、まだまだ苦手なこともあります。

三月には、小学校を卒業し、中学生になります。だから、これからも自分の良さを生かして、苦手なことにも挑戦していき、明るい未来をめざしていきたいです。



いじめのない
世の中に

本郷小学校
6年 山本 伶奈

みなさんは、いじめにあったことがありますか。私があります。いじめは、始めはとても小さいことかもしれませんが、人によっては、いじめとは、思っていないかもしれないでも、された人にとつては、将来までつながる大きな傷になるのではないのでしょうか。

私が、いじめにあったのは、中学年のころでした。私は、その時友達も少なかったため、姉がいた六年生の教室によく遊びにいらしていました。休み時間に教室にいない時間が増え、だんだんとクラスがグループになりはじめ、私はあ

まりクラスになじめなくなっていました。その頃から、私は無視をされたり、嫌みを言われたりすることがふえていきました。今まで一緒に過ごしてきたのに、なぜなのだろう、とても悩みました。それでもたえて、学校に通っていました。

ある日授業で、私は発表することになりました。手を挙げる、先生に名前を呼ばれました。発表することはできました。でもみんなの視線やひそひそとした会話が、「教室から出ていけ。」と私にいつているように聞こえました。実際には、そう言っていたわけではないと思います。しかし、私には友達の視線や小さな声がそう感じられたのです。その時は、のどが固まって、声が出ないような感覚になりました。とてもこわくて、悲しくて、私は次の日学校を休んでしまいました。明日、学校へ行くと、何を言われるのか、私は不安で心がおしつぶされそうになりました。そして、たくさん泣きました。

次の日、学校へ行くと、先生が私の気持ちを話して下さって、嫌がらせをしていた子たちがあやまってくれました。

「ごめん。もう、せんけん。」

この一言で、私は涙があふれました。今になってなぜいやなことをしたのかきいてみると私のことがきらいなのではなく私がクラスになじめていなかったからだったそうです。ただそれだけでした。本当はいじめようという気はなく、少し、からかったことが、結果的にいじめになってしまったのだとわかりました。その友達とは少しづつ話すようになり、今では仲良くあそぶようになりました。私はこの経験で「いじめ」は「けんか」とはちがうのだと思うよ

うになりました。けんかは、何か大きな原因があることがほとんどです。でもいじめはおどろくほど、なんとなく始まってしまふのです。そして、とても小さなことから、気づかないうちに大きなことにつながってしまうのです。大人も子どももいじめを「ただのけんか」だなんて思っていますか。

いじめは放っておけば、大人になっても誰かを傷つけることになります。それが大人同士のいじめにつながり、め事になり事件になり、ついには戦争のきっかけになるのです。だから今私たちの近くでおこっているいじめをなくすことが、いじめのない世の中につながるのだと私は思います。



真の友達関係を つくる

大刀洗小学校
6年 中原 健三

みなさんは、真の友達関係を、つくれていますか。真の友達関係とは、どんな関係でしょうか。何でも一緒にすること？言われる通りに動くこと？怒らせないように気をつかうこと？僕は、真の友達とは、自分も相手も、本当のこと、正しいことを言い合えるのが、本当の友達関係だと思います。みなさん、友達の顔を思い浮かべながら、聞いて下さい。

これは、僕が、まだまだ小さかった頃の話です。僕は、ある友達と一緒に遊んでいると、その友達が、急に、こう言ったのです。

「ここ、本当は入っちゃいかんところやけど、面

白そうやけん、一緒に入ってみよう。」

僕は、その言葉を言われて、迷いました。本当は、いけないことだと分かっているのに……。だけど、断ったら、何か言われるかも知れない。それは、イヤだな。そう思いました。そして、僕は、本当はダメだと分かっているのに、その本当のことを言えずに、

「うん、入ろう。」

と、言ってしまいました。

僕は、その時言った言葉を後悔しました。断っておけばよかった、という、モヤモヤした気持ちだけが残ってしまい、その後は、本当に楽しくはありませんでした。

そして、その後、そのことが結局先生に知られてしまい、厳しくしかられました。僕も入ってしまったのですから、友達のせいにはできません。友達には、本当のこと、正しいことを言おう、という僕の思いは、いつそう、強くなりました。

それから、僕は、正しいこと、本当のことを言える、真の友達関係づくりを意識して過ごしています。

非常に言いにくいことですが、僕たちのクラスは、昔、いじめがあっていました。でも、それをみんなで無くそうと努力してきました。今では実際にみんなが仲良くなり、明るいくラスになつていたので、過去をきちんと受け止める意味で、あえて話したいと思います。

ある日、僕が、友達と一緒に掃除をしていると、その友達が、突然、僕に言いました。

「みんなと同じように、オレ達も、あの友達を、無視しようや。」

僕は、迷いました。どうしよう。僕が無視したら、その友達がますます悲しむ。でも、言うこと

を聞かないと、この友達が怒るかな。でも、やっぱり……。たくさん迷いましたが、僕は、真の友達関係を思い出し、勇気を出して、こう言いました。

「いや、オレは、そういう無視とかしたくないけん、しない。」

僕は、真の友達関係をつくりたかったし、そして何より、どちらの友達とも、仲良くしたかったのです。

あの時、無視することを断れたから、今、二人と仲がいいのだと思います。そして、その二人の友達同士も、今では仲良くなっています。僕は、正しいことが言えて、本当によかったと思っています。

今の僕は、友達に、正しいと思うことは、迷わず言っています。また、友達も、それを受け止めてくれています。だから、僕は、今の友達は、本当の友達だと思っています。

しかし、仲が良くなるにつれ、友達が失敗した時や、自分より何かができなかった時に、それを笑ってしまう自分もいます。だから、これから、今の友達関係から、さらに一歩進んで、友達の幸せを、一緒に喜べる人になりたいです。

みなさんが、今、思い浮かべている友達の顔は、きつと、真の友達になれる人です。ぜひ、正しいこと、本当のことを言葉にして伝えて、また、友達からも言ってもらって、真の友達関係を、みんなで作っていきませんか。そして、来年、四月に、大刀洗中に入學するみなさんと、僕と、真の友達に、なつて下さい。一緒に、頑張っていきましょう。



すてきな町大刀洗

菊池小学校

6年

小川 アビゲール 知紗

私の父はイギリス人です。私は、イギリス人の父が、なぜイギリスではなく日本の大刀洗町に住んでいるのか、疑問に思いました。それで、父に尋ねてみると「地域とのつながりが強く、地域みんなでいろいろな行事をしているのが素晴らしい、大刀洗町を気に入っているから。」と答えてくれました。私も大刀洗町が好きです。そこで、もっと他にも大刀洗のすてきな所はないかと考え、さらにすてきな町にするためにどんなことが必要かを考えると、次の三つの考えがでてきました。

一つ目は、父が言うように地域のいろいろな人とかかわりあいを増やすことです。現在、大刀洗町には一万五千五百七十七人の人が住んでいます。他の市町村と比較してそれほど多くはありません。しかし、一人ひとりが触れ合う機会が多くなり、人とかかわりが増えるのではないかと思います。私の母は、よく隣の方と楽しく話をしていきますし、私もよく地域の空き地に集まって遊んでいます。また、行事にもたくさん地域の地域の方が来られます。学校の行事はもちろん、町民体育祭などの行事にもたくさん応援に来てくださいます。私は、今年「とんがすな」に出場しましたが、多くの地域の方から応援してもらいすごくうれしかったです。これからもより地域のつながりを強くし、大刀洗町の

みんながつながりあえることができれば、より一層すてきな町になると思います。

二つ目は、自然豊かな場所を増やすことです。大刀洗町には自然が多く残っていて、とても気持ちが良いです。米作りもさかんで、たくさん田んぼがあり、生き物もたくさんいます。菊池小学校では、赤米作りをしています。田植えや稲刈りなど赤米の世話は大変ですが、米作りはとても楽しいです。また、育てたもち米を使って、もちつき大会で作るおもちはとてもおいしいです。

しかし、最近家がたくさん建ち並び、自然が無くなっていく所があります。人が増えることも良いことですが、自然も大切にし、人間と自然が共存できるような町をつくっていくといいなと思います。

三つ目は、一人ひとりが思いやりの心をもつことです。菊池小学校の六つの約束の中に「思いやり」という言葉があります。私はいつもこの「思いやり」を意識して生活しています。思いやりの心が増えると、周りの友達も笑顔になり、とてもうれしくなります。今、菊池小学校では朝のあいさつ運動や縦割り活動を通して、思いやりの輪が広がっています。この思いやりの輪を、大刀洗町全体に広げていきたいと思っています。一人ひとりが誰に対しても思いやりの心をもつことができれば、この大刀洗町は、さらに笑顔あふれるすてきな町になると思います。

自分の住んでいる町がより良くなつて欲しい。これは、誰もが思っていることだと思います。地域のつながりを深めたり、自然を増やしたりすることは、私一人ではできません。でも自分にもできることがあります。それは、三つ

目を書いた、思いやりの輪を広げることです。私は、自分のもっている思いやりの心を、周りの人にも広げていきます。そのために、友達に声をかけたり、地域の人に挨拶をしたり、自分でできることをしっかりとやっていきたいです。思いやりの心がいつばいの町になれば、地域とのつながりも生まれ、よりすてきな町になるのではないのでしょうか。

この他にも、大刀洗町がさらによくなるために、いろいろな方法があると思います。その一つ一つに取り組んでいることが大切だと思います。そんな話合いができるといいなと思います。ここにいるみなさんも、大刀洗町をさらに良くするために、できることから始めてみませんか。そして、笑顔あふれるすてきな大刀洗町にしていきましょう。



私を支えてくれたもの

大堰小学校

6年 重松 花菜

私が、今ここに立って、こうやって話をするなど、以前の私には考えられませんでした。

私は、言われたことはまじめに取り組む方だと思えますが、恥ずかしがり屋で、自分から声をかけたり、「はい、私がやります。」と、進んで引き受けたりすることはありませんでした。

そんな恥ずかしがり屋で消極的な私が、この主張大会に出る勇気を出すことができたのは、四月からクラスメイトになった友だちの支えがあったからです。

私は、小学校入学と同時に、この大堰から他県に引越して、今年の四月に大堰小学校に転入して来ました。五年ぶりにみんなに会えることはいれなかったのですが、やはり、最高学年の六年生での転校はとても不安でした。

「私のことを覚えているかな。私を受け入れてくれるかな。みんなと仲よくなれるかな。一人ぼっちになったらどうしよう。」と不安で、夜、布団の中でいろいろ考えたことがあります。そんな不安を吹き飛ばしてくれたのは、始業式の朝、校長室で待っている私を担当の先生と一緒に迎えに来てくれた2人の友達でした。

「久しぶり。」と、笑顔で私に声をかけてくれました。うれしくて、「私は、一人じゃない。」と思えました。それまで、ドキドキして重苦しかった胸が、スーッと軽くなりました。

教室に行くと、「おれのこと覚えてる？」「家はどこ？」と話しかけてくれたり、学校の教室や保健室などを教えてくれたりと、みんな親切にしてくれました。

五月の運動会では、ふれあい係になり、開会式で「はじめの言葉」を言う担当になりました。学校だけでなく地域の人の前で話すなど、初めての経験です。実際に練習で朝礼台に立ってみると、思っていたよりも高く、心臓がバクバク音を立てているのに気づきました。「うわあ、どうしよう。」心の底から不安な気持ちになりました。

その日の練習では、案の定、声も小さく、とても早口になってしまいました。家でセリフを覚え、家族にも聞いてもらって練習していたはずなのに、「明日も練習があるのかあ、いやだなあ。」もうこのまま、本番にならなければい

いのに。」などと思っていました。

次の日、みんなが来る前に練習をしようとして朝礼台に立ったその時、同じふれあい係の友達が急に運動場の反対側に走って行ったのです。そして、向こうから大きな声で「ここで聞いてください。」と聞こえたらマルってするね。」と言ってくれました。朝礼台の上に立つとひとりぼっちで不安でしたが、遠くに伝える相手がいってくれたことで、なんだかほっとした気持ちになりました。みんなからどう思われているんだろうという気持ちもどこかへ行ってしまったようでした。遠くから、マルつという合図が見えた時は、とてもうれしかったです。

本番では、とても緊張しましたが、友だちが見守ってくれているという安心感で、落ち着いて言うことができました。いつも練習に付き合ってくれたお母さんからも「最後までしっかり言えたね。」とほめてもらいました。初めてで最後となった大堰小の運動会は、自分の成長を感じることのできたよい思い出になりました。

私は、転校でたくさんの不安を味わいましたが、その不安があったからこそ友だちの優しさを感ずることができたのだと思います。また、友だちや先生、家族からの励ましも、自分を頑張らせることにつながったと思います。私は、今回の主張大会の代表を、自分から「やりま

す。」と言えた自分の成長がうれしいです。初めてのことをするときや苦手だと思っていることをする時は、だれもが不安な気持ちになります。友達のそんな姿を見かけたら、そつと声をかけてください。そして、力になってください。きっと、その友達は、勇気をもつことができると思います。

私もそつとそばに寄り添い、友達を支えられ
るような存在になりたいです。

最後に、不安でいっぱいだった私を支えてく
れた友達に、心から「ありがとう」と言いたいで
す。



十二年目のバトン

本郷小学校
6年 古賀 晴喜

「あいさつができるようになってほしい。六
年生はあいさつの指導をしてほしい。できるか
できないかの責任は六年生にある。」

校長先生のこの言葉を聞いたとき、ぼくは、
その責任が、ぼくの肩にかかったように思いま
した。

ぼくは、今、計画委員会の委員長をしていま
す。そして、計画委員会でもあいさつ運動に取
り組んでいるのです。あいさつ運動を本郷小学
校が始めて今年で十二年目。これまでの計画委
員会の先輩たちも、なんとか学校を変えようと
頑張ってきました。

「今度は、ぼくの番だ。」

ぼくは、十二年目のバトンをしつかりこの手
に受け取ったことを感じました。

どうしたら、みんながあいさつをしてくれ
るようになるだろうか。そう思い、ぼくは、今ま
でのあいさつ運動をふり返ってみました。五年生
の頃に行っていたあいさつ運動は、通った人にあ
いさつをし、大きなあいさつを返してもらおうと
いうものでした。ぼくは、このやり方に疑問を

もっていました。しかし、五年生の終わりの頃、
やり方を少し変えてみると、あいさつを返して
くれる人が少し増えたように感じたことを思
い出しました。あいさつ運動のやり方次第で
は、みんながあいさつをしてもらえるようになる
のではないかと、ぼくは思いました。どのよう
なやり方をすればいいのだろうかと思ひ、ぼく
は、いろいろなやり方を計画委員会で試してみ
ることにしました。

まず試したのは、「名前呼びあいさつ運動」で
す。その名の通り、あいさつするとき、

「〇〇さん、おはよう。」

と、相手の名前を呼ぶのです。名前を呼ばれる
ことによって、あいさつを返してくれるように
することがねらいでした。しかし、名前が分か
らない人がいることや、慣れたら顔を上げてく
れなくなるという課題が出てきました。

次に試したのは、あいさつがよかった人を、
放送で発表する「ほめほめあいさつ運動」です。
もともと本郷小学校では、あいさつがよかった
人を放送で発表していました。それを班ではな
く人に変えることで、ほめられた人は喜び、次
もまたあいさつをするようになると思いまし
た。また、ほめられなかった人にも、次は頑張ろ
うという意識をもってもらえると考えました。
これは、低学年には大変効果があったので、今
も行っています。

さらに、「ハイタッチあいさつ運動」にも取組
みました。これは、ハイタッチをしながらあい
さつをするというものです。この効果は、低学
年だけでなく、中学年や高学年にもありまし
た。そして、あいさつをしながら手を出すと、顔
が上がって、心も少し楽しくなることが分かりま

した。楽しさをつくるのがカギになるかもし
れないと思ひ、今は、この方法を使ってあいさ
つ運動を行っています。

このように、本郷小学校のあいさつ運動は進
化してきました。しかし、それでも、あいさつの
声は、まだまだ小さいと思ひます。そもそも、な
ぜ、あいさつをしなければならぬのでしょ
う。皆さんは、どう思ひますか。

ぼくは、あいさつは、人として大切なコミュ
ニケーションだと思ひています。なぜなら、あ
いさつの「挨拶」には、心を開いて近づくとい
う意味があり、「挨拶」には、せまるという意味がある
からです。つまり、あいさつは、「人に心を開い
て近づくもの」なのです。あいさつから、人との
コミュニケーションが始まり、人との関係をつ
くっていくことが始まります。また、あいさつ
でよく使う「おはようございます」には、「早く
から起きてご立派、ご苦労様です。」という意味
があり、「こんにちは」には、「今日はご機嫌いか
がですか。」という意味があります。二つとも相
手をねぎらったり気づかたりする言葉です。
あいさつは人が人を敬う心からできたものだ
と分かります。コミュニケーションには欠かせ
ないものなのです。だからこそ、あいさつする
ことは大切だし、多くの人にあいさつをして
もらいたいのです。

「おはようございます。」

ぼくのあいさつ運動は続いています。声が小
さくながりがちな日は、残念な気持ちになること
もありますが、この手の中にあるあいさつ運動
のバトンを握りしめ、その責任を果たすために
頑張っています。これからさらに多くの工夫を
し、大きな声のあいさつが飛び交う学校にして

から、次の六年生に十三年目のバトンを渡したいと思います。



友達から支えられて

大刀洗小学校
6年 佐藤 杏

「ああ、もう、自分だけ、できていない」「みんなに、置いて行かれる」「私は、一人ぼっちになっっている」…みなさんには、きついこと、つらいこと、苦手なこと、いやなこと、ぶつかった時、あきらめそうになっってしまった経験は、ありませんか。私は、何度も、あきらめそうになっただけがありました。しかし、絶対に、どうしても、意地でもあきらめたくないと、やり続けていたら、いつしか、多くの友達が支えてくれるようになっていました。

これは、私が、四年生の時の話です。その頃の私は、算数の問題がわからず、毎日のように涙を流していました。できるようになりたくて、がんばりましたが、次の日も、また次の日も、やっぱりわかりませんでした。教室では、クラスの友達がほとんど合格していきます。私は、いつも、問題が解けず、一番最後まで残っていました。問題が解けないことは、もちろんイヤでしたが、何より、みんなに置いて行かれて、一人ぼっちになるかも知れないという不安が、大きかったのです。

担任の先生は、
「本当にわかりたいなら、泣いていないで、聞きに来なさい。」

と、おっしゃいました。私は、悔しくて、どうしてもできるようになりたくて、でも、自分からは先生に聞きに行けず、泣きながら、問題と、にらめっこを続けていました。そんな時に、友達が、私に声をかけてくれました。

「わからんなら、教えるよ。一緒にしよう。」
もし、私が、もういいや、と、あきらめていたら、その友達から、声をかけてはもらえなかったと思います。私は、声をかけてくれた友達に、感謝しました。友達が教えてくれたおかげで、少しずつ、問題が解けるようになりました。同時に、わからなくてもあきらめないで、本当に良かったと思いました。

また、今年の運動会の話です。私は、赤組の応援団長になれました。そして、本番の1か月前から、同じ赤組応援団の友達と一緒に、応援歌や隊形を考えていました。そんな時、うまく伝えることができていなかったようで、応援歌が二曲できてしまいました。

「応援歌は、男子の担当って言ったやん。」
「でも、もう、くじで女子のに決まったと。」
それぞれの歌詞を作った男子と女子で対立し、イヤな雰囲気になってしまいました。私は、応援団長なのに、怒っている男子にも、強引に進めようとする女子にも、何も言えませんでした。そのくせ、このまま仲直りできず、ぐちゃぐちゃのまま本番を迎えたらどうしよう、と、不安でいっぱいになり、心が折れかけていました。そんな私たちの雰囲気に気付いたのか、
「困つとるなら手伝うよ。」

「よくわからんけん、先生呼んでこよっか。」
と、声をかけてくれた友達がいました。しかも、

それは、偶然そこを通った、応援団には入っていない、クラスの友達でした。

私は、とても嬉しくなりました。そして、感動しました。私たち応援団を、応援してくれる友達がいたので、そのおかげで、私たちは、気持ちが明るくなり、みんなで頑張りが直すことができました。助けてくれる友達がいることが、自信になりました。

今日話したこと他にも、きついこと、つらいこと、逃げ出したくなることは、たくさんありました。でも、私は、その時やっぱり、あきらめないで過ごしてきたように思います。そして、それは、本当によいことだったと思っています。あきらめなかったから友達が支えてくれて、友達が支えてくれたから、私は、少々のことではくじけず、あきらめないで、友達に感謝できる、今の自分になれました。

まだまだ算数は苦手で、いざという時には、なかなか言葉が出ない私です。でも、そんな自分とも向き合って、何でもあきらめずに、精一杯努力していこうと思います。そんな私を支えてくれる友達への感謝の気持ちを忘れず、前に進んでいきます。



大好きな野球から

菊池小学校
6年 太田 一翔

少し前までのぼく。誰に対しても遠りよがちで、自分から人に声をかけることが苦手でした。そんなぼくを変えてくれたのは、四年生の

時に出会った野球のおかげです。

四年生の夏、野球体験に行きました。その時、ぼくは、キャプテンの姿に目をうばわれました。そのキャプテンは、全力でプレーをしたり、大きな声を出し、みんなをまとめたりしていました。その姿がとてもかっこよく、ぼくも、キャプテンみたいになりたいとあこがれました。ぼくは、野球体験の日から、何日も何日も考え、ついに、お母さんに、

「野球に入りたい。」
とたのみました。すると、お母さんに、

「中途半端な気持ちで入ったらいかん。」
と真剣な顔で言われました。ぼくは、その言葉に覚悟が生まれ、さらにお父さんにも相談し、入部することを決めました。ぼくはあのキャプテンみたいになるぞと目標をもち、がんばろうと気合を入れました。

週四日の野球生活が始まりました。練習にノックがあります。ノックとは、コーチが打つボールをとることで、ノックを受ける時

「おねがいます！」
と言わなくてはなりません。しかし、ぼくははずかしくて小さな声しか出せません。そんなぼくに、コーチは、

「大きな声を出すと全力が出せる。そしたらどんなボールでもとれる。」

と激をとばします。コーチの言葉は、頭の中では分かります。けれど、なかなか「おねがいます」の一言が大きな声で言えませんでした。何度も同じことを注意されながら、少しずつ声が大きくなり、それと同時にボールに飛びつく積極的な自分が出てきたことを感じました。そして、野球が上手になりたいという気持ちから、

コーチや先輩に、進んで分からないことを聞き、繰り返し練習を行いました。

六年生になり、副キャプテンという立場になりました。ぼくは、チーム全員でうまくなることを考えるようになりました。例えば、ミスをした仲間に、自分が習った上手くなる方法を教えたり、「どんまい。次があるよ。」と声をかけたりと、積極的に仲間に関わるようになっていきました。すると、仲間も緊張せずにプレーができた。二コツと笑い、失敗を気にせずプレーを続けてくれたりしました。ぼくの一つの言葉で試合が変わったり、仲間のプレーが変わったりすることが分かりました。自分の行動が人に影響を与える。副キャプテンとしての責任感が強くなつていきました。

しかし、チームをまとめること、六年生である自分が動き、下級生の手本となるということがいつもうまくいくとは限りません。何より自分自身のプレーで、チームを引っ張らなければ、というプレッシャーに押しつぶされそうになることもよくあります。コーチの言う「チームのことを考えろ。」を実行に移すのは簡単なことではありません。けれども、自分だけでなく、周りのみんなも楽しいと思える野球をしようと思いがけ、今もプレーを続けています。

一方、学校生活でのぼく。今、ぼくは、自分の思いを友達に伝えることができています。そして、友達と話すことが楽しくなり、今までなかなか遊ばなかった子にも声をかけ、友達の数も増えました。また、運動委員会の委員長をやってみたいと思いい、チャレンジしています。さらに、人と競う場面でも、本気で向き合い、全力を出し切る楽しさを感じられるようになりまし

た。この主張大会にも、今ぼくが考えていることを知ってもらいたいという思いをもち、自分から立候補しました。このように、積極的に行動する自分がうまれ何事にも自分から関わることで、何となくもやもやしていた心が明るくスツキリになりました。そして、こんな自分のことを、ぼくは、いいなと思えるようになっていきます。

これからも、ぼくは、自分の思いをはっきりと伝え、進んで行動し、楽しいと思える生活を仲間とつくっていききたいです。そして、このように、ぼくを変えてくれた野球に感謝し、下級生のあこがれとなるプレーを目指していききたいと思えます。



大刀洗をもっと にぎやかな町にしたい

大刀洗中学校
1年 河村 花菜子

みなさんは、今住んでいる所、大刀洗町が好きですか。もっと明るい、にぎやかな町にしたいと思いませんか。私も大刀洗町が大好きです。そしてそんな大好きな町を、町の人の優しさや明るさなどの人の心でにぎやかにしていきたいと思っています。

最近、私の家の周りには、新しい店や住宅がたくさんできています。店ができると便利になるし、住宅ができると近所の人が増えてうれしいです。

だけど、稲がきれいだった田んぼがなくなつていき、なにより小さい時にいつも遊んでいた

広い空き地などの思い出の場所がなくなっていくことはさみしいです。

でも、変わっていないものもありました。それは、町の人の優しさです。私が感じた町の人の優しさはたくさんあります。例えば、小学生の時、毎朝ハイタッチをしてくれる見守り隊の方がいらつしやいました。その方のおかげで私は、すごくうれしい気持ちになり、元気に登校することができました。また、学校から重い荷物を持って帰っていたとき、その荷物を私が引きずっていたらしく、わざわざ車を停めてまで

「引きずっているよ。」

と、声をかけてくれた方もいらつしやいました。そんな風に私は、町の人にたくさん優しくしていただいています。「優しい言動をしてもらって、いやな気持ちになる人はいません。全員がうれしい気持ちになれます。」逆に、建物が建つと私のようにさみしい、悲しい気持ちになる人もいます。

だから、みんながいい気持ちになれる、「町の人の心でにぎやかにしていけたらいいな。」と考えるようになりました。優しい心、明るい心を持っていれば、あいさつや地域の人のふれ合い、ボランティアなどもできるはずです。建物を建てることは大人にしかできません。

でも、優しい心を持つことは町の人全員ができることです。中学生の私たちにも町をにぎやかにする一員になるためにできることがたくさんあります。だから私は、進んであいさつをしたり、ボランティア活動に積極的に参加したりしたいと思いました。

このように私は大刀洗町をにぎやかにする一つの方法として、町の人の優しさや明るさなど

でにぎやかにすることを考えました。いつまでも、私たちの住んでいるこの大刀洗町は「町の人々の心が変わらない町であってほしいから、みなさんも優しい心を持ってあいさつやボランティア、人助けができるようになってくれるとうれしいです。そして大刀洗町を町の人全員でもっといい町にしていけるといいと思います。」



一人のおもいやりの行動で

大刀洗中学校
2年 平田 晴海

七月二十六日午前二時頃に起きた事件。この出来事は日本中の誰もが知っていると思います。神奈川県相模原市のある身体障害者施設で刃物によって切りつけられ死者十九名、負傷者二十六名という多くの方が犠牲になりました。この出来事はテレビで知りました。この頃、外国でテロなどが多く起こっていたので、「日本ではそんなことはないな。」と思っていました。しかし、神奈川県と聞いて驚きました。まさかこの日本でこのような事件が起こるとは想像もつかなかったからです。いつもはニュースなど見ないのに手を止めて、見はじめました。連日流れる容疑者の言葉を聞き私の怒りは増える一方でした。このニュースを知っている人は、どのよう感じましたか。このような出来事が起こるのは、相手を思いやることができなからだとおもいます。私は思いやりについて深く考えさせられた出来事がありました。

中学二年生になったばかりの休日に起きた

ことです。私はあるショッピングモールのスパーにいきました。買い物が終わって帰ろうとしていた時のことです。車いすに乗っている方と付き添いの男性、二人がいました。その車いすに乗っている方は少し通行のさまたげになる所におりました。そこを通った人達は冷たい視線をおくりながら通って行くのでした。それに気づいた付き添いの男の人は、

「すみません。」

と頭を下げながら車いすをすみによせるのでした。確かに通行の邪魔になる所にはいますが、冷たい視線をおくるのはおかしい事だと思います。その中には舌打ちをしている人もいました。考えてみて下さい。もしも、足が不自由で、自分が車いすに乗っているとしたら、足の不自由なのは仕方のないことです。それなのに冷たい視線をおくる行為は車いすに乗っている人とその家族を傷つけることだと思います。その通行人は急がなくてはならなかったのかもしれない。しかし、それでも温かい目で見守ることが理解するということが必要だと思います。世界中にはこのような方はたくさんいらつしやいます。だからこそ、他人事と思わず自分達から理解し、優しい心をもつことから始めませんか。私は色々な事を抱えた方も笑顔で助けあえる世の中になることを願っています。一人がこのような事を始めても何か変わることもあるのか、と思った人がいるのかもしれない。しかしそこに困っている人がいて一人でも思いやりをもった人が、手助けや声かけをしたとすれば困っていた人は嬉しくなるはず。そうすれば一人でもありがとうという感謝の言葉を持つ人が増えます。「大丈夫ですか」

この一言で人は救われると思うのです。このよ
うな事が少しでも増えるともっと感謝の言葉
も積み重なっていき、またそれらの行動が広
まっていくと私は思います。

最後に、思いやりの心を持った人が一人でも
いればどこかで笑顔が一つ生まれることこの
ことを忘れないで下さい。この話を機会に少し
でも変わる人ができてほしいなと思いま
す。まずは身の周りの事から少しずつ始めてい
きましょう。



理科の不思議と スゴさ

大刀洗中学校
3年 白水 優輝

多くの苦手な教科の一つの理科。筆記は苦手
だけど実験は、とても好きで興味があります。

理科は四つの分野にわかれています。
一つ目は地学。二つ目は物理学。三つ目、化
学。四つ目は生物学です。

みなさんはどの分野が好きですか。

ぼくは、生物分野が得意なので、その物理分
野の不思議とスゴさについて主張します。

一つ目の不思議は、車に乗っている時にた
まに思うのですが、車が走っている時に、ドア
を開けてジャンプするとキレイに着地すると
思っていたのにテレビとかのアクション映画
とかでは、着地と同時にこけていたのです。

それを見て何をしているんだと笑ってしま
いました。ぼくは、そのままキレイに着地でき
ると思っていたのです。この事が一つ目の不

思議で二つ目は、電車に乗っている時に考え
るので、電車の中でジャンプしてもそ
のまま電車と一緒に進んでいくのがとても不
思議です。

普通に考えたら自分は空中にいて電車は進
んでいるので、電車の進行方向の逆側にぶつ
かってケガすると思うのですがそうではな
かったのです。

みなさんも頭の中で考えてみて下さい。
もしも、自分が船の一番端っこに乗ってい

てそこからジャンプすると船に置いていかれ
て海に落ちると思いませんか？なのにそのま
ま自分も船も進んでいくのです。それがとて
も不思議です。何回考えても頭の中がおかし
くなってしまうんです。このことが二つ目の不
思議です。

三つ目の不思議は、何らかの箱の中に自分が
入っているとします。その時スカイツリーの高
さから落とされるとします。その箱が着地する
直前に自分の体を落下速度と同じ床をけて
ジャンプすれば、着地する寸前にジャンプして
普通に助かると思うのです。これが三つ目の不
思議です。

これらの三つの不思議を理科では、慣性の法
則と言います。こうやって不思議に思うことの
原因が分かっているのがとてもスゴイと思
います。

でももつとスゴいのは、その法則をみつけた
人だと思えます。慣性の法則を最初聞いた時、余
り関心はなかったけど、今では興味が湧いてき
ます。僕が思うには、発見した人も最初は興味か
ら始まっていると思ったのです。人は、何事にも
興味を持てば、集中力も考え方も変わってくる

と思います。少し感じたことでも新しい発見が
生まれると思います。

こうやって分からないところを僕たちに教え
てくれるのは学校です。今、学校に知られていな
い人もそう簡単じゃないのは分かります。でも
一歩踏み出して下さい。僕も学校に行けてない
時がありました。その時はクラスの人や部活の
仲間が声かけをしてくれてとてもうれしかっ
た。それで今では学校に毎日これています。今で
は、みんなに感謝しています。

これからは学校に来ていない人を学校に來
れるように楽しく明るい学校に恩返し気持
で少しでも変えられたらいいと思います。

三年生みんなで志望校合格しましょう。

僕がこの主張で本当に伝えたかったことは、
理科のスゴさと勉強の大切さです。



まなび講座



きらきら☆スノードームをつくろう

平成29年2月19日(日)、親子を楽しむ!まなび講座『きらきら☆スノードームをつくろう』を開催しました。受付開始からたくさんの申込を頂き、当日はわいわいとにぎやかな様子でした。

作業には難しいところもあり、保護者の方がお子様の手をとって教える姿も見られました。

小さな穴からラメや液体を入れるのが難しくこぼしたりしながらも、そんなハプニングも楽しかったとの感想も頂きました。

毎日が忙しく過ぎてゆきなかなか親子での時間がとれないなどあると思いますが、今回の体験講座のように一緒のことに取り組むなど、意識して親子の触れ合いをもっといただけたらと思います。

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家庭を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

家庭の日(毎月第3日曜日)には



ウォーキング大会

大堰校区民会議
四ヶ所 喜俊

10月29日(土)、大堰校区のふれあいウォーキング大会を総勢120名を超える参加者のもと開催しました。大堰校区にお住まいの年齢80歳を超える方から保育園児まで、片の瀬公園の往復5.7キロメートルを全員で楽しく歩き、語り合いながら過ごしました。

当日は前日のどしや降りから一転、天候にも恵まれ、現地では、北筑後教育事務所の高宮先生、船越先生のご指導のもと道具を使わないレクリエーションで、子どもたち、保護者の皆さん、大堰小学校の先生、ボランティアで参加してくれた大刀洗中学校の生徒さん、地域の方が、楽しみながら一生懸命頑張つて大いにふれあい、みんなの顔がだんだん笑顔になっていく一日となりました。

憩いの園大堰交流センターに帰つてからは、参加した皆さんのもう一つのお楽しみ、ボランティアで炊き出しをしていただいた美味しいと評判のおにぎりとお汁の食事。また、何が当たるか楽しみな抽選会で、番号が呼ばれる前まではシーンとしていて、いったん番号が呼ばれると歓喜の声、ため息が飛び交う場となりました。区長さま、第3分団、小学校の先生、地域の皆さまのご協力で参加者も100名を超える行事となりました。今、教育の場で成就させていこうとしているコミュニティースクールのひとつのあるべき姿のような気がします。

最後になりますが、皆さまに感謝するとともに今後もウォーキング大会を通じてふれあいの輪が大きくなっていく行事となればと強く願っています。



アンビバ子ども食堂

本郷校区民会議
井上 聖基

本年度より本郷アンビバシヤス広場では、通常の週2日(火曜と木曜)の活動に加えて、第4土曜日に「アンビバ子ども食堂」を新たな活動の一つとして設けました。

いま世間で話題となっている「子ども食堂」とは少し異なり「自ら進んでお母さんの手伝いをしよう」を目的としています。

おうちの方が不在の場合でも子どもたちが「冷蔵庫にあるもので何かを作れる」をモットーとし、簡単レシピを主体として毎回楽しく料理体験活動を行っています。

子どもたちは、毎回の料理づくりを楽しみにしており、「家で作ってみたよ」「おいしかったよ」と嬉しそうに会話を弾ませていきます。

これからも子どもたちができる美味しい料理作りをめざして、楽しみながら子どもたちのためになるような「アンビバ子ども食堂」を続けていきたいと思っています。



ふれあいハイキング

大刀洗校区民会議
中原 進

11月19日(土)大刀洗校区ふれあいハイキングが開催されました。目的を大刀洗公園として募集したところ、100名もの参加がありました。悪天候の為止むを得ず、小学校体育館に会場変更をしたにもかかわらず、各地域から出て頂いたお世話担当の方々や活動内容と活動時間に工夫を凝らしながら、臨機応変に見事に対応して頂きました。

参加した子ども達の皆さんも、ボール送り・なわとび・ドッチボール等のレクリエーションゲームにおいては、急編成チームにもかかわらず、仲良く年齢相応の楽しみ方を見せていました。また、恒例のピンゴゲームでは、今回も大いに盛り上がりました。更に昼食では、同じ地域の友達や保護者、地域の方々と一緒に輪になって楽しいひとときを過ごしていました。

今回も会場までの行き帰りを含む子どもたちの活動全般において怪我や事故等もなく無事に楽しくふれあいハイキングを終えることができました。これは、お世話の方々や交通安全協会の方々のお陰と深く感謝致します。

来年もより多くの方々に参加してもらえよう、企画・運営に更なる工夫を加え、地域活性化に繋げて行く所存です。

最後になりましたが、今回の活動で特筆すべきは、中学生諸君の活動ボランティアとしての取り組みに成長の兆しが強く感じられたことだと思います。こういう活動を通して、地域活性化の一翼を担う逞しい大人に成長して貰いたいと思います。



なわとび



ドッチボール



ピンゴゲーム



ボール送り

もぐら打ち

菊池校区民会議

近藤 和広
柳 邦雄

1月7日(土)、菊池小学校で恒例の「もぐら打ち」が催されました。九州地方に伝わる新春の伝統行事であるもぐら打ちを子どもたちにも体験してもらおうと、健全育成菊池校区民会議の伝統行事部が受け持ちました。参加したのは同小学校の児童約110名と保護者やPTA役員、同校区民会議の役員など約110名。

最初は、体育館でもぐら打ち作り。作り方の説明を受けた後、それぞれにチャレンジ。竹の先端の笹の部分で30〜40センチほど折り曲げてから稲わらを束ねて囲い、紐できつく縛るのですが、初めて作る子どもたちにとっては難しいようでした。

完成したら、運動場でのもぐら打ち。モグラを追い出すために、竹の先端を地面に当てるのですが、元氣よく振り下ろして竹が折れた子どもも…。

最後に伝統行事部長の佐藤さんの「14日のもぐら打ち、ねぎだれ、けいだれ、打ちまくれ」の掛け声に合わせて、全員で地面を叩いて今年の豊作と無病息災を祈願しました。

運動場でのもぐら打ちが終了後、子どもたちや参加者はPTA女性役員が作った温かいぜんざいを味わいました。



夏祭りボランティアを通して

大刀洗中学校 1年 川野 遥門



ぼくは、夏休みに本郷ふれあいセンターでの夏祭りにボランティアとして参加しました。小学生の頃から何度もこのお祭りを楽しんでいましたが、楽しんでばかりで夏祭りを運営している人のことは考えたことがなかった。今年、ボランティアに参加して、今までとは違う視点で夏祭りを楽しもうと思っていました。

ボランティアは、いろいろな屋台のお手伝いをする。古くなった本を無料で持ってくる屋台がありました。自分ももらいたくなるような本もたくさんありましたが、本を持って帰ってもらえなときは、とてもスッキリしました。

その他にも、輪なげをして、終わった人にお菓子を配るという屋台がありました。ここでは、なかなか苦労することがありました。例えば、お菓子を配るとき、3種類のお菓子があつたのですが、どうしても人気がないために余ってしまうものがありました。それをみんなに何とかして配ろうとアピールしたり一人ひとりをお願いしたりしました。屋台の仕事は大変でしたが、これらのボランティアを通して、ぼくはたくさんの方が楽しむためには、それだけの人がそのために働いているということが分かり、よい経験になりました。これからは、このことを理解した上でイベントなどを楽しみたいです。

家庭の日によせて 防災クッキング

社会教育指導員 濱砂 香織

平成28年10月16日(日)、大堰憩いの園の中庭にて「親子を楽しむ！まなびイ講座 防災クッキング」が開催されました。少し天気が心配でしたが、雨も降らず予定通り行うことができました。

初めに燃料となる小枝を拾ってきて、七輪での火起こし体験を行いました。マッチの火のつけ方や、火がなかなか燃え広がらないことに苦戦しながらも頑張った作業する子どもたち。

今ではあまり使用しないような火吹竹も登場し、交代で吹いていました。

空き缶と七輪を使って炊いたご飯は、しっかりと炊けている子やまだ少し固かった子などもありましたが、良い体験になったと思います。

災害時に大事なことは、家族でどういう行動をとるか決めておくことで、日ごろからの家族との会話が大切だと思えます。今回の防災クッキングを通して、家族で考えるきっかけになってほしいです。



編集後記

現代は、超高齢少子化社会と言われます。

今回の講演会は、子どもたちに焦点をあて、食育の重要性を学びました。

また、少年の主張大会では未来を担う子どもたちの力強いメッセージを聞いて、これから先の大刀洗の子どもたちを地域全員で育てていけるよう、今後もしっかり取り組みを行なっていく必要があると感じました。

本誌の編集にご協力していただいた方々に深く感謝いたします。

(田島孝三)



【編集委員長】

大堰校区 中島 信治

【編集委員】

大堰校区 野瀬 英美

本郷校区 田島 孝三

本郷校区 棚町 英則

大刀洗校区 中原 進

菊池校区 柳 邦雄

菊池校区 近藤 和広

事務局 重松 裕子